慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

| | |
|---|---|
| Title | ビジネスモデル研究-インターネット・ベースド・ビジネス・モデル（IBBM）- |
| Sub Title | |
| Author | 村田充弘(Murata, Mitsuhiro)<br>矢作恒雄 |
| Publisher | 慶應義塾大学大学院経営管理研究科 |
| Publication year | 2001 |
| Jtitle | |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | 修士学位論文. 2001年度経営学 第1728号<br>連絡が必要 |
| Genre | Thesis or Dissertation |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002001-1728 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 論 文 要 旨

| 所属ゼミ | 矢作 研究会 | 学籍番号 | 80028919 | 氏名 | 村田　充弘 |
|---|---|---|---|---|---|

（論文題名）

## ビジネスモデル研究

### ― インターネット・ベースド・ビジネス・モデル（ＩＢＢＭ） ―

（内容の要旨）

1990年代に米国を中心にインターネットを駆使したネットベンチャーのブームが起きたが、それも2000年5月をもって終焉した。ネットバブルと言われるこの現象は、インターネットを使ったビジネスに適した財・サービスの選択を誤った企業があった事、投下資本に対してそれを上回る利益を回収するといった起業家がビジネスを創造する上で重要な設計思想に欠けていた事が原因ではないかと考える。

ネットバブルが崩壊した現在、そして将来においてもインターネットをベースにしたビジネスは存在するし存在し続けるであろう。それではインターネットを使ったビジネスに適した財・サービスとは何か、そして継続的に利益を上げることが可能な優れたビジネスモデルを構築するにはどのようなビジネスの設計思想が必要なのか。インターネットをベースとしたビジネスに最も適している財・サービスの１つとして情報財が挙げられる。情報財の特徴は無形のままで付加価値の提供が可能である事、そして通信インフラのブロードバンド化に最も適した財である事である。本論文ではインターネット時代の情報財の特徴とその価値回収モデルを整理し検討している。

一方で、持続的な競争優位のあるビジネスモデルを設計する際の設計思想については、ビジネスモデルの概念の定義から６つの視点を提唱している。(1)事業ドメインの設定（a.付加価値ｂ.提供対象 c.提供方法）、(2)提供した付加価値の回収方法の設定、(3)企業の組織形態の設定、(4)アライアンス企業との関係の設定、(5)ライバル企業との関係の設定、(6)経営者(経営チーム)の設定これら６つの視点にたいし筆者なりの優れたビジネスモデル構築の考え方を検討している。

インターネット時代の情報財の特徴と、優れたビジネスモデルの設計思想を基にインターネットをベースにした情報財ビジネスのビジネスモデルの仮説を立案し事例研究を行なった。事例研究の対象企業の４社はいずれも情報財を扱う企業であり、インターネットを駆使してそのビジネスを行なっている。４社は差別化されたビジネスモデルを構築していると考えられるが、その価値回収方法には違いが見られた。１つの情報財から複数の価値回収方法を設定している企業とそうではない企業である。情報財はその特徴から価値回収モデルを複数組み合わせることが可能な場合があり、複数の価値回収方法を設定することが出来ればそれだけ、投下資本の回収タイミングが早くなる。

また、近年情報財の中でもソフトウェアのＡＳＰ（アプリケーション・サービス・プロバイダ）事業という新たなソフトウェアの提供方法とその価値回収方法を持つビジネスがあるが、ＡＳＰの価値回収可能性についても検討を加えている。過去ソフトウェアの販売形態の主流であった売切り形態に比べ、ＡＳＰ事業は投下資本に対する価値回収のタイミングが遅くなり、必要資本と獲得顧客の緻密な予測が必要となる。

仮説でのビジネスモデルの設計思想と、事例研究による情報財ビジネスの価値回収方法の設定と投下資本に対する価値回収のタイミングを検討することで、実際にビジネスモデルを構築する際により具体的な提案となると考えている。